

振興計画体系					令和5年度 事業費(千円)					前年度比	実施状況	成果	課題	今後の方向性		
					総合戦略体系	事業名	事業目的	事業内容	国県支出金						その他特定財源	一般財源(志基金含む)
3	2	1	1	2	農業次世代人材投資事業(経営開始型)	青年の就業意欲の喚起と就業後の定着を図るため、経営が不安定な就農直後(5年以内)の所得を確保する資金を交付する。	独立・就農時(経営開始計画に即して主体的に農業経営を行っている者)の年齢が、原則49歳未満の者に対し、年間最高150万円を最長5年間交付する。	14,350		5	14,355	55%	令和4年度実績 (1) 給付者 15名 (2) 交付額 21,167,116円 (3) 事務費 77,365円 合計 21,224,481円	対象者は、独立・自営就農者であり、経営リスクを負っている新規就農者の経営が軌道に乗るまでを支援することを目的としており、担い手の育成確保に結びついた。		継続
3	2	1	1	1	地域計画策定推進緊急対策事業	高齢化・人口減少により地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される中、農業者等による協議(話し合い)を踏まえ、地域の農業の在り方や農地利用の姿を明確化した地域計画の策定を支援する。	それぞれの集落・地域において若年者から女性を含む幅広い意見を取り入れながら、徹底的な話し合いを行い、地域農業の在り方と「目標地図」を作成し地域計画を策定する。	761		5	766	891%	実質化した人・農地プランに新たに中心経営体を加えるため、6地区の話し合い、検討会を開催	実質化した人・農地プランに新たに地域農業を担う中心経営体として追加することで、地域農業の在り方を考える機会となり、今後の地域計画策定に向けた意識を高めることができた。	地域計画を策定するだけでなく、地域の実情を踏まえた実行性のある計画を作成する必要がある。	継続
3	2	1	2	4	ツーリズム推進事業	滞在体験型余暇活動を創出し、都市と農村の交流を図る。	志布志市“志”ツーリズム協議会の会員を対象に受入研修会や、日帰り体験メニューの作成、県外の修学旅行生の受け入れ、農家民宿の開業支援等を行う。			219	219	61%	総会、修学旅行受入、日帰り体験事業の実施、各種研修会の実施等	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、研修会や講習会、先進地研修など積極的に活動を行った。昨年度より教育旅行の問い合わせや受入件数は多くなっている。		継続
3	2	1			志布志市生活研究グループ連絡協議会支援事業	農産漁村の男女が共に参画する豊かで活力ある農村社会の実現及び、農林漁業の振興に資する。	郷土料理教室の実施、先進地事例研修、広報誌面での生活の知恵の普及、曾於地域生活研究グループ連絡協議会の総会・研修会への参画、子育て世代を対象とした食文化継承の取組促進業務委託等。			82	82	100%	総会、郷土料理教室の実施、自主加工研修の実施、市報掲載等	コロナ禍で思うような活動は出来なかったが、農山漁村のより良い生活や働き方の研究・技術・知識について、地域へ波及させることが出来た。		継続
3	2	1			志布志市ブルーファーマーズ育成事業補助金	農業後継者であるクラブ会員相互の親睦と融和を図りながら、いずれ経営者となる青年が必要な情報を得たり、学んだりする場となる事業を実施しているブルーファーマーズクラブの活動を支援する。	将来の農業の担い手に必要な知識や情報を習得する機会を積極的に活用し、情報交換することで青年農業者の独立自営に寄与する。			63	63	100%	総会、新規就農助ましの会出席、定例会の開催、各種研修会の実施・参加、県農業青年交換大会の参加等	コロナ禍で思うような活動は出来なかったが、会員相互の親睦と融和を図ったとともに、知識・技術の交換、技術向上のための研究により、クラブ員の知識・技術の向上及び後継者の育成が図られた。		継続
3	2	3			活動火山周辺地域防災営農対策事業	桜島の降灰により本地区の野菜、茶が被害を受け、収量及び品質低下の原因となっているため、降灰対策として被覆施設を、摘採前洗浄機及び摘採機能付除灰機を導入し被害の軽減を図り、生産性及び品質の向上に努め、生産農家の経営安定を図る。	・被覆施設等の整備や降灰の付着した野菜、茶の洗浄機械の導入。 ・補助金は事業費の65%以内。	341,573			341,573	65%	R4実績 まる正福茶園株式会社 補助金 3,380,000円 有限会社一勝 補助金 4,043,000円 しぶし生産組合 補助金 161,527,000円 株式会社サンファーム堀口 補助金 6,398,000円 きみどり生産組合 補助金 141,873,000円 有限会社なべやま 補助金 36,146,000円 有限会社なべやま 補助金 5,590,000円	ビーマン、いちごの作付面積の拡大と降灰被害の軽減が図れた。		現状維持

振興計画体系			総合戦略体系		事業名	事業目的	事業内容	令和5年度 事業費(千円)					実施状況	成果	課題	今後の方向性
								国県支出金	その他特定財源	一般財源(志基金含む)	合計	前年度比				
3	2	3			かごしまの農業未来創造支援事業(産地づくり)	ピーマン等の被覆施設の附帯施設や省力化機械等を整備し、生産の安定、高品質化を図り生産農家の経営安定に寄与する。	・共同利用を行う生産組合等に対し農作業の省力・高品質化機械の導入経費の助成を行い生産性の向上、農業の振興を図る。 ・補助金は事業費の1/3以内。	10,000			10,000	33%	R4実績 しぶし生産組合 補助金 9,584,000円 きみどり生産組合 補助金 8,422,000円 とよのか生産組合 補助金 9,077,000円	ピーマン、いちご生産の安定、高品質化を図り生産農家の経営安定が図れた。		継続
3	2	1	1	1	農地中間管理事業	農地中間管理機構を通じて農地の貸借を行い、農地の集積・集約化、農業経営の規模拡大及び新規就農者等による農用地等の効率的利用を促進し、農業の生産性向上を図る。	農地中間管理機構が一旦、農地所有者から借受け、集積・集約化し、規模拡大や経営農地の集約を行いたい担い手に貸付を行う事務を委任を受けて実施する。また機構に貸付を行った地域・個人の内、要件を満たした地域・個人に協力金を交付する。	8,480	11,193	79	19,752	166%	地域集積協力金が見込める地区(尾野見中村)を支援地区として推進した。	令和4年度実績 (1) 地域集積協力金 219a 744,600円 (2) 経営転換協力金 1戸 9a 9,000円 計 753,600円	過疎と高齢化が進む中、担い手や後継者が不足している状況にあり、未相続農地の割合も増えつつある。こうした状況の中、地域の農業を支える担い手への農地集積や作物の団地化をさらに進めるため、所有者と耕作者の意向を踏まえながら、農地中間管理事業を推進していく必要がある。	継続
3	2	1	1	2	新規就農育成総合対策事業(経営開始資金)	次世代を担う農業者となることを志向するものに対し、就農直後の経営確立を支援する資金を交付する。	独立・就農時(経営開始計画に即して主体的に農業経営を行っている者)の年齢が、原則45歳未満の者に対し、年間最高150万円を最長3年間交付する。	25,600		5	25,605	170%	令和4年度実績 (1) 給付者 8名 (2) 交付額 10,500,000円 (3) 事務費 45,219円 合計 10,545,219円	新規就農者の経営が、軌道に乗るまで支援するより、担い手の育成確保に結びついた。		継続
3	2	1	1	2	かごしまの農業未来創造支援事業(経営発展支援)	次世代を担う農業者となることを志向するものに対し、就農後の経営発展のために機械や施設等の導入を支援する。	49歳以下で新たに農業経営を開始する認定新規就農者に対して、機械・施設等の補助対象事業費(上限1,000万円)の4分の3を交付する。ただし、新規就農者育成総合事業(経営開始資金)の交付対象者は、上限500万円とする。	45,100		5	45,105	86%	令和4年度実績 (1) 給付者 10名 (2) 交付額 39,786,000円 (3) 事務費 0円 合計 39,786,000円	就農後の機械や施設等の導入を支援することで、新たに農業経営を開始した者の経営発展に結びついた。		継続